

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	粒子線がん治療に係る人材育成プログラム		事業開始年度	平成19年度		作成責任者
担当部局庁	研究振興局		担当課室	研究振興戦略官付		研究振興戦略官 渡辺 正実
会計区分	一般会計		上位政策	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	粒子線治療固有の知識・技術を有した放射線腫瘍医、医学物理士等の中核的な役割を果たす専門人材を、5年間で40名程度育成し、全国各地において導入が計画されている粒子線がん治療施設のニーズに対応していくことで、治療技術の普及・促進に貢献する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	粒子線がん治療固有の知識・技術を有した放射線腫瘍医、医学物理士等の中核的な役割を果たす専門人材を5年間で40名程度育成する。具体的には、人材育成カリキュラムを制定するとともに、粒子線がん治療について十分な知識・経験を有する8機関を最大限活用してOJT(On the Job Training)による研修を実施する。					
実施状況	<p>事業開始年度である平成19年度に、職種毎のカリキュラム・基礎研修テキスト・OJTガイドブック等の作成、事業を円滑に実施するための審議や進展状況の評価・勧告等を行う各種委員会・会議からなる実施体制の確立、研修受講申請から修了認定を行う研修修了認定制度の確立等を実施。2年目の平成20年度より研修生を受け入れ、育成を開始。受け入れ者数は16名、研修終了者数は5名に達した(平成21年12月現在)。</p> <p>平成22年2月科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会において中間評価を実施し、「現在は、本プログラムの立ち上げが完了し、本格的に育成人数を増加させていく段階に入ったと言える、進捗状況は概ね順調と考えられる。」との評価を受けた。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	40	80	80	80	71
	執行額	40	80	80		
	執行率	100.0%	100.0%	99.4%		
	総事業費(執行ベース)	40	80	80		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	○毎年度現地における額の確定作業において実績報告書等の確認を行うとともに、必要に応じて状況調査を行うことにより、支出先・用途を具体的に把握している。				
	見直しの余地	○粒子線治療施設の普及に関するニーズの増大に伴い、全国で必要となる専門人材を確保するため、カリキュラムの充実・適正化による実習期間の短縮や積極的な宣伝活動等により、育成人数の増を図るべき。 ○本事業によって育成された中核的人材が、さらに専門人材を育成することを促進するため、中核的人材育成プログラムの質の改善等の必要な措置を講ずべき。 ○本事業の政策効果を最大限に発揮すべく、より効果的な実施体制や手法等について検討すべき。				
予算・監視の効率化	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、粒子線治療固有の知識・技術を有した専門人材の育成を行う研究開発に関連した公募型事業である。</p> <p>2. 所見:プログラムの立ち上げ段階は終了し、すでに研修終了者を輩出するようになっていることから、これ以上の新規採択は行わず、事業の効率化を一層進めることで予算を縮減しつつ、継続課題が終了する平成23年度をもって廃止することとすべきである。</p>					
補記						

文部科学省
80百万円

諸謝金 0.1百万円 } を含む
委員等旅費 0.1百万円

〔実施機関を公募・選定するとともに、マネジメントを実施〕

【公募・委託】

A:粒子線がん治療に係る人材育成プログラム
:79百万円
大学・病院等(全8機関)

〔人材育成カリキュラムを制定するとともに、既に粒子線治療について十分な知識・経験を有する既存8機関を最大限活用してOJTによる研修を実施〕

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A. (財)医用原子力技術研究振興財団					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	業務担当職員に係る人件費	17			8
雑役務費	人材育成ホームページの開発(リリクア株)	3			
	達成度評価システムの機能拡張、改善(日本SGAI株)	3			
	ポータルの製作(株山善)	1			
	人材育成資料整理等作業(株スタッフサービス)	1			
印刷製本費	各種テキスト、パンフレット、ポスター	5			
国内旅費	各種委員会出席、講師旅費	3			
諸謝金	講師謝金、テキスト原稿謝金	2			
その他	消耗品費、会議開催費、通信運搬費、借損料、消費税相当額、一般管理費	6			
計		41	計		8
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: 粒子線がん治療に係る人材育成プログラム

	支出先	支出額(百万円)
1	財団法人医用原子力技術研究振興財団	41
2	兵庫県立粒子線医療センター	9
3	国立大学法人筑波大学	7
4	国立がんセンター東病院 (H22. 4. 1独立行政法人国立がん研究センター東病院)	6
5	静岡県立静岡がんセンター	6
6	国立大学法人大阪大学	6
7	財団法人若狭湾エネルギー研究センター	4
8	独立行政法人放射線医学総合研究所	1
合計		79

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。